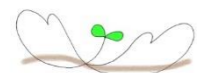


# さくらんぼ通信

 さくらんぼ保育園 園だより No.273

令和5年10月2日(金)発行  
 さくらんぼ保育園 園だより  
 桜が丘東2-2-809  
 Tel 995-9071  
 Fax 995-9072

## 『十人十色』

砂が固まっている日は、快適に遊ぶために砂場の砂を端から端まで掘り起こします。何をしているか興味を持った子どもたちが掘り起こしているところへ近づいてきました。私はシャベルを持っているため、安全に十分配慮して掘り進める側で「みつけた！」と砂の塊をどんどん拾っていく子どもたち。ただ拾うだけではなくにじ組は力加減に苦戦しながら持ち上げて、落として壊すことを楽しみ、つき組はより大きな砂の塊を見つけコレクションして楽しんでいました。ほし組はバケツやお皿に盛ってままごとをしており、遊び方もさまざまです。そら組は大きいスコップをもって一緒に砂起こしを手伝おうとしていました。同じものに興味を持って、遊び方や感じ方は年齢や個性によって違ってきます。十人十色の感情や思いに寄り添い、楽しい時間を共有していきたいです。

宮本 真優

## 今月のBEST SHOT



## 10月 行事予定

- 7日(土) 運動会
- 8日(日) 運動会予備日
- 11日(水) お話会
- 13日(金) 健脚活動③
- 17日(木)・18(金) 入園見学会
- 19日(木) 誕生会
- 23日(月) 避難訓練
- 29日(金) 熊山登山
- 30日(月) ほし組お泊り説明会



## 11月 行事予定

- 6日(月) お泊まりごっこ
- 9日(木)・10(金) お泊り保育
- 15日(水) お話会
- 21日(火) 健脚活動④
- 24日(金) 避難訓練
- 30日(木) 誕生会



## リズムであそぼう♪

『スキップ』…スキップは足の前後運動であり、楽しい気持ちになると思わずスキップになります。足の親指の付け根(母指球)が充分に育ってきた子どもたちは、前に前に蹴って進みます。



スキップが難しい子は、身体の前で交差させた手を添えて(下から優しく支える)、ゆっくりと一緒にスキップをすると上達してきます。

# はな組 ゆき組

園庭から部屋に帰る時に「片付けして、部屋に帰ろう」とこどもたちに声をかけました。使っていた玩具も片付け終わり、部屋に帰ろうとした瞬間、部屋とは逆方向に突然走っていく子の姿が。“まだ遊びたかったのかな”“他のあそびを見つけたのかな”と思って声をかけず観守っていると走った子の先には出しっぱなしになったままのマットがあり、それを片づけ始めました。「部屋に帰るよ」とこどもたちの行動や気持ちを大人の都合で遮ってしまうのではなく「どんな思いなのかな」とこどもたちの視点を考え、観守り、振り返ることを大切にしたいと感じる出来事でした。



# にじ組



拾った落ち葉で製作をしている時のことです。その葉っぱを使って樹木を表現しようとしていると、Aさんが「これも貼りたい」と木の枝や木の実を袋から取り出しました。しかし、壁面に飾ると落ちてきてしまいます。「どうしたら落ちないかな？」と一緒に考えると「のりももっとつける」「小さいのにする」とのりの量や木の実の大きさを変えて試行錯誤していました。Aさんなりの工夫が最大限に見られましたが、上手く貼りつかず、諦めかけているAさんの視界に入るようにそっとセロハンテープを用意してみました。すると隣にいたBさんが、「テープにしたら？」と呟き、Aさんも「テープでやってみる」と新しいアイデアが。避けていた大きい木の実も貼ることができ、オリジナルの作品ができました。どうすればいいかな、という状況を一緒に悩み、一緒に試行錯誤し、こどもたちの斬新な考えやアイデアを尊重しながら思いを実現したいです。

## 観守り保育の中で見えてくる こどもの姿と保育者の関わり

「観」という漢字には物事を見て意味や本質を捉える。考えるという意味があります。  
こどもたちの姿や行動から、こどもたちの思いや言葉の裏にある気持ちや考えを実現させるためにはどう関わるかがいいのかを考えていけるように“観守り保育”を大切に、実践しています。

# 光ら組



給食室の手伝いで玉ねぎの皮むきをしました。事前に「全部で8個あるからね」と伝えておくと、一人一つでは足りないと感じたこどもたち。自分たちで考え「一緒にしよう」「交代でしよう」など友だちと話し、二人一組になってすすめていました。しかし、そら組は全員で18人。二人で一つを剥いていたら足りないと感じた子が周りを見回し、玉ねぎがなくて困っている子に「〇〇ちゃん一緒にする？」「このグループは三人でやろう」など声をかけていました。自分のことだけでなく、周りの子のことも考え行動する姿に成長を感じます。困っている時、手を差し伸べるのは大人だけではありません。こども同士が助け合い、思いやりの心を育めるような環境を大切にしたいです。

# つき組



# ほし組



そら・ほし組の姿にあこがれ、棒渡りをまねっこ。しかし、なかなか前に進めません。悔しい顔を浮かべるため、保育者が棒にぶら下がったと同時に「1, 2, 3…」とカウントをしました。すると、「5(秒)できた」とさっきの表情とは違って満面の笑みで答えていました。次はもう少し長い間ぶら下がりたいという気持ちが芽生え、前回の数を越そうとしっかりしがみついていた。

こどもたちの“やりたい”と張り切る姿をしっかり認めながら、こどもたちの発達に合った、今できるあそびに達成感がもてる働きも大切にしたいです。

戸外で遊んでいた時のこと。Aさんが靴を園庭に投げ始めました。「Aくん靴投げたらいいけんよ」とBさんがAさんに伝えていました。Bさんは靴を投げていることや裸足(靴下)で園庭にいることが違うことだと思ったようです。それなら手で投げず、足で飛ばす靴飛ばしにしたら面白いんじゃないかと思い「明日天気になあれ」と言いながら靴を飛ばしてみました。「やりたい」と何人かがそれぞれに飛ばし始めたので「人に当たらないように気をつけてみんなで飛ばそうよ」と提案しました。こどもたちが自分たちで「せーの」と声を出し合い飛ばすことを楽しみ始めました。危険だなと思うことも止めるのではなく、違うあそびに変換して楽しむことでそれぞれの気持ちに折り合いを付けながら、思いが実現できる方法をしっかり考えて行きたいと思います。